

その1 この15年における変化と動向

日本女大家政 ○沖田富美子 阪市大生活科学 上林博雄

「目的」 台所の実態調査より、台所の標準設計を求めるのは一つの有力な方法である。本研究は食器・調理器具、調味料、保存食品等の所有、使用状態をは握し、同時に約15年前におこなった筆者等の調査結果(上林)との比較から、その変化と動向を探ぐり標準所有量設定の基礎資料を得、さらに標準台所への一提案を試みようとするものである。

「調査概要」 住居学専攻学生(3年次)の家庭を対象とした台所の平面図、展開図、所有器具等の実測記入調査(69件中66件集計)。保存食品の調査のみ大学/年次生の家庭を対象(77件中66件集計)。調査時期は前者が1975年8月、後者が1978年10月である。これらの対象世帯は、前者は我国の平均的収入階層よりやや高く、後者は近似するものである。

「調査結果」 和食器、洋食器、ガラス食器、主要調理器具、小物調理器具、プラスチック製品等の所有率、平均所有数、使用頻度、収納場所、入手方法及び乾物、調味料、香辛料、保存食品等の所有率、入手方法、収納場所については、当日具体的に提示する。

「調査結果の吟味」 上記の結果より、変化及びその動向を要約する。1)量的豊富化：全体的には所有品目には特定のものを除きそれほど差はない。しかし所有率、平均所有数が増加。2)質的多様化：食器、調理器具等のより多くの品目使用及び香辛料等の所有増加。3)食事のたんらん化：盛ばち・盛ざら・菓子用具等の所有、使用の増大。なお入手方法は、購入による入手が高い。しかし贈答による入手もわずかであるが増加する傾向にある。一般に台所内収納が多い。しかし台所内での分散収納あるいは一部贈答品の台所外収納が多く、台所設計計画の不備がうかがわれる。